

令和6年度 日本大学文理学部個人研究費 研究実績報告書

所属・資格 教育学科・助手

申請者氏名 市野 亮太

研究課題		統廃合に伴う地域コミュニティ再編に関する研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>近年、我が国の各地では、少子高齢化の影響による人口減少が進んでいる。地方になると、これに加え、若者の都市部への人口流出も起きており過疎化にも拍車がかかっている。こうした影響を受け、文部科学省が定める適正規模(12～30 学級)の学校数の減少がみられ、過小規模とされる 11 学級以下である学校が多く存在している。適正規模に達することが難しくなった学校では、児童の減少等による人間関係の固定化や教育活動の制約が課題となっており、標準規模の確保に向けた統廃合等が進んでいる状況である。一方で、学校での行事参加や、児童生徒の関わりを通してつながっていた地域コミュニティの意識が希薄化など、地域の学校を喪失した地域への影響も少なくない。</p> <p>そこで、本研究では学校の統廃合を経験した学校における「学校を核とした地域づくり」について検討していく。具体的には、統合校における実践に焦点を当て、廃校地域の教育資源の活用方法を明らかにする。そのうえで、廃校地域も含めた新たな地域コミュニティの再編における学校一地域の連携の在り方について考察する。</p>
	研究の結果	<p>今年度は、研究目的を明らかにするために事例調査を行った。対象地域は、京都府美山町であり、人口減少や過疎化による統廃合を経験しており、学校を中心としたコミュニティの再生が喫緊の課題となっていた。そうした課題について、美山町では、学校運営協議会を設置した学校(コミュニティ・スクール)を中心とした学校と地域の連携によって、人々のつながりづくりや地域意識の醸成が図られていた。また、こうした活動を通じて地域課題に対する当事者意識が育まれており、地域住民のエンパワメントにつながる可能性が示された。この調査に関する調査・結果は現在、論文化を進めている。</p>
	研究の考察・反省	<p>今年度の研究では、地域コミュニティの再編について、学校と地域の取組から明らかにした。実際に学校関係者やコーディネーターから聞き取り調査を行い、対象地域の取組と意図を詳細に明らかにすることにつながったといえる。</p> <p>しかし、地域住民や学校外の関係者への調査が進められなかったことが反省であり、今後の課題である。地域コミュニティの再編に関する意識等、今後明らかにしていくことが必要である。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>・研究成果物</p> <p>①「サッカー競技における部活動地域移行に関する現状と課題—日本サッカー協会(JFA)による取り組みに着目して—(研究ノート)」、『ポストコロナ社会における教育問題に関する発展的研究—日本大学文理学部人文科学研究所共同研究報告書—』、2025年2月28日、pp.103 - 108.</p> <p>②「大学生の学生生活の意識と行動に関する調査研究—2018年調査と2024年調査の比較分析を踏まえて—」、『ポストコロナ社会における教育問題に関する発展的研究—日本大学文理学部人文科学研究所共同研究報告書—』、2025年2月28日、pp.89 - 96.</p>	